

人文学研究科が目指すところ



巻頭言

宮本陽一*

What would the Graduate School of Humanities like to accomplish?

Key Words : 人文学、分野横断的教育・研究、国際共同研究、人文知、総合知

大阪大学大学院人文学研究科は、江戸時代の町人の学問所「懐徳堂」にルーツを持ち、1953年に法文学部に併設された大学院として発足した文学研究科と、1989年に言語文化部が解消・再編され、独立研究科として発足後、2007年の大阪外国語大学との統合を経て、拡充した言語文化研究科の統合によって、こんにちの社会が直面する数々の課題に取り組むべく、2022年4月に発足した。

人文学研究科では、人文学専攻、言語文化専攻、外国学専攻、日本学専攻、芸術学専攻の5専攻が、本学の他部局と連携し領域横断的な研究を推奨しつつ、それぞれの研究・教育を遂行すると同時に、専攻の枠を越えた、異分野間の教員・学生の交流を活性化するために「人文学林」を設置し、このグローバル化した社会を見据えた、新たな学問分野創出に努めている。



* Yoichi MIYAMOTO

1961年6月生まれ
 米国コネチカット州立大学大学院博士課程修了 (1994年)
 現在、大阪大学大学院 人文学研究科 研究科長・教授 言語学博士 (Ph.D.)
 専門/理論言語学、心理言語学
 TEL : 06-6850-5950
 FAX : 06-6850-5865
 E-mail : y.miyamoto.hmt@osaka-u.ac.jp

また、「デジタルアカデミア」を設置し、研究科構成員間のみならず学外に対して情報発信を積極的に行っている。このような新たな試みに加えて、デジタルヒューマニティーズに関する基礎科目を提供するなど、文理融合を容易にする教育プログラムのもと、「仮想空間」と「現実空間」の最善の融合形態を見極める目を持った、ウィズコロナ、アフターコロナ時代の社会において必要とされる、さまざまな分野の研究者、高度専門職業人を育てることを通して、人文学における新たなかたちの教育・研究機関を目指している。

現在、Society 5.0のもと、グローバル化した社会において科学技術は目覚ましい発展を遂げ、医療や科学技術等の分野において我々の生活を豊かにしていることは言うまでもない。しかしながら、Society 5.0が目指す真の社会は「人間が中心となる社会」であり、人文学・社会科学の知見が「社会の改革」にとって必須であることは明らかだ。



上の写真は私の子供が折った龍の折り紙だが、これを上手だと思う人もいれば、彼をよく思わないクラスメートのよう下手だと思う人もいるはずだ。し

かし、親である私は下手だとは思わない。何故であろうか。この例は人間がものごとを判断するときの判断基準が異なることを端的に示している。個々の生まれ育った生い立ち、個々を取り巻く状況・文化等によって判断基準の異なる人間が集まる社会をより良いものにしていくことが Society5.0 の課題なのだ。このためには、人間が作り上げてきた言葉、芸術、哲学、歴史等、幅広く人文系の学問をより深く理解し、それらを融合させることが必要である。この領域横断的な研究によって得られた知見をもとに、文理の境界を超えた自由な発想を駆使して、国連が掲げている「持続可能な開発目標」等、さまざまな現代的課題に取り組むことによって初めて、Society5.0 が目指す「人間を中心とする社会」は現実のものになる。

ヨーロッパに目を移すと、いち早く人文学・社会科学の重要性は認識され、「ホライズン 2020」として日本の1歩先を進んでいるように感じる。この「ホライズン 2020」ではヨーロッパにおける人文学・社会科学系の研究推進が目的の1つとされており、人文学・社会科学系のプロジェクトに巨額の助成がなされてきた。人文学研究科はベルリン人文科学センターとミラノピッコカ大学が研究拠点を務める、言語学に関わる「ホライズン 2020」の助成対象プロジェクトに日本から協力研究機関として関り、人

文学系では依然として数少ない国際共同研究を推進している。

この共同研究では世界 30 か国語以上の言語獲得の過程を明らかにして、言語発達の普遍性を明らかにすることを目的としている。大阪大学のたけのこ保育園の園児たちは実験を「お仕事」と呼び、日本人代表として実験をゲームのように楽しみながら、がんばっている。このプロジェクトは、現在、注目されている深層学習に基づく言語獲得モデル構築に対しても新たな知見を与えることが可能になると信じる。このような人文学系の国際共同研究は、人文学研究科においては言語学に限られたことではなく、グローバルヒストリー等においても積極的に行われている。また、分野横断的な共同研究としては、レーザー科学研究所と連携した考古学・文化財科学、深層学習を活用した芸術学等の研究が行われており、人文学研究科において理系の知見は必須になりつつある。人文学研究科は文系・理系等の概念に囚われず、新たな人文知の創出、ひいては Society5.0 の時代に即した総合知創出を目指して、このグローバル化した社会における人文学教育・研究を進めていく。

本研究科が、大阪大学において新たな人文学の成果・価値を生み出すことができるよう、皆さまのご協力を引き続きお願いいたします。



ミラノピッコカ大学における国際ワークショップ終了時の集合写真